

## 令和4年度 旭川市工芸センター運営委員会 会議録（要旨）

日 時 令和4年7月14日（木） 14:00～15:20

場 所 オンライン開催（一部来所）

出席者 （委員）藤田委員，關口委員，河野委員，宮島委員，井上委員，千尋委員，戸田委員，  
高橋委員，岩永委員，中村委員（欠席：笹川委員）

（事務局）三宮経済部長，鈴木工芸センター所長ほか

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者 なし

会議資料 令和4年度 旭川市工芸センター運営委員会次第

旭川市工芸センター運営委員会委員名簿

資料1 令和3年度事業報告書

資料2 工芸センター利用実績の推移

資料3 令和4年度 工芸センターの施策概要

### — 会議録 —

---

#### 1 開会

あいさつ 三宮経済部長

#### 2 議事

##### 議題（1） 委員長・副委員長の選任

<互選により，委員長，副委員長を選任>

##### 議題（2） 令和3年度事業の報告について

##### 議題（3） 令和4年度事業の概要について

<事務局より資料1及び2に沿って令和3年度事業内容を，資料3に沿って令和4年度事業概要を説明>

##### （委員長）

今説明のあった内容に関して質問があればお願いします。

##### （委員）

依頼試験には，こういった種類の試験が多いですか。

##### （工芸センター所長）

家具の強度試験は，大きく分けてJIS，旧JIS，Mマークの3基準で行っています。一番多いのは，椅子に繰返し荷重や静的荷重を加える耐久性試験です。最近では，同じ商品でも材種を

変更することで製品の強度が変わるので、その検証を行うための試験が多くなっています。

また従来は公共施設では鋼製の家具の使用が多かったですが、最近は木製什器を入れる傾向があり、耐久性等の性能が一定程度証明されないと採用に至らないことから、多くの試験依頼をいただいています。

**(委員)**

そうした試験の依頼主は、旭川市内業者に限られているのですか。なにか決まりがありますか。

**(工芸センター所長)**

工芸センターは市有施設なので基本的には市内企業が対象ですが、東川、東神楽、当麻の各町にも「旭川家具」と銘打って製造しているメーカーがあるので、そういった所には利用させていただいています。

また道内の試験機関で小型木製家具の検査をするスタッフが不足しているという状況もあって、道内各地から試験依頼が来ています。東京や岡山からの依頼もありますが、試験方法などの打合せが必要なことから、依頼者が試験製品をセンターに直接持ち込み、引き取ってもらうという条件で受けています。

混雑状況によっては試験結果が出るまでに2か月ほどお待ちいただくケースも生じてきていますので、今年度、小型の簡易的な試験機をもう一台導入する予定です。

**(委員)**

林産試験場では単純な材料試験は行えるのですが、家具の耐久性試験などは行えないので、そうした依頼を受けたときに工芸センターを紹介してよいのか、判断をしかねています。

旭川市内の企業を窓口にすれば、工芸センターで対応してもらえることになりますか。

**(工芸センター所長)**

例えば試験中に大きな変位や破壊が生じた場合などに、試験を継続するかなどその後の対応を協議する必要が生じることもありますので、やはり担当者が近くにいるとすぐに協議に来ていただけるような状態が理想です。

なお工芸センターでの試験は、数値データに基づいた証明書を発行するのではなく、依頼者と共同で試験を行い、その結果を報告書として提供するという性質のものなので、その点を御理解のうえで御利用いただければと思います。まずは御相談ください。

**(委員)**

資料1の4ページの「技術指導・各種相談」のうち、デザインに関する指導・相談の実績がゼロとなっていますが、こうした指導・相談は、工芸センターの職員が対応するということですか。具体的にはどういった内容なのでしょう。

**(工芸センター所長)**

以前、専門職員がいた時代には、手書きのデッサンを設計図面に落としたりというようなことも行っていましたが、今は行っていません。

近年では、例えば、デザイナーが設計した家具の強度試験をしたら部材が細すぎて破損した場合など、見た目のデザインを変更しなければ商品として成り立たないような時に、どういったデザインに変更するかなどのアドバイスをすることはあります。

色や形などをどうするかといったデザインそのもののアドバイスというのは、現状ではできていない状況です。

(委員)

実用面からのアドバイスをするということですね。

相談実績がゼロなので、そういった相談も受け付けているということをもう少しPRをしてみてもどうかと感じます。

(委員)

資料1の6ページの「製造業実態調査」の表に記載してある調査件数と、資料3の右上の表に記載してある事業所数が一致していないのはなぜですか。

(工芸センター所長)

資料1は実際に調査への回答があった件数です。一方の資料3は未回答だったものも含めた件数で、業界の総売上高を推計するために未回答を含めています。

(委員)

資料1の9ページの「窯業実習コース」で、従来使用されることが少なかった釉薬を使ったことですが、産業振興上は有意義なことだと思いますが、重金属系釉薬の安全面や健康への影響、環境への負荷といった面もあわせて考えていくことが必要であると感じました。

(委員)

大型恒温恒湿試験機を更新するとのことですが、使用料はどうなりますか。現状の4,140円のままでしょうか。

(工芸センター所長)

現時点では導入機種が決まっていないため未定です。今後契約手続きが進み、導入機種が決定すれば、その機種の電力使用量や検査コストなどを踏まえて決定することになります。

(委員)

利用者目線で考えると、あまり高額になっては困りますので、適正な価格設定としてもらいたいと思います。

(委員長)

御質問や貴重な御意見ありがとうございました。これを踏まえて事務局の方で必要な対応等を行ってもらいたいと思います。

#### 議題(4) その他

(委員長)

本日はせっかくお集まりいただいたので、業界を取り巻く様々な話題について情報交換をしたいと思います。

はじめに、「道産木材の活用」というテーマについて、各業界での状況や関連する取組などがあればお話を伺いたいと思います。

### (委員)

家具業界では、ウッドショックの影響もあって、木材価格は高止まりの状況です。樹種によってはコロナ以前と比較して5割程度の値上がりをしています。海運コンテナの混乱も収まっておらず、特にアメリカからの材が入ってこないという状況が続いています。このような状況で、道産材広葉樹の利用が高まり、ナラやタモなどを中心に様々な道産材を活用していかなければ、ものづくりが追いつかない状況となっています。

家具組合でも道産材の利用状況調査を行っていますが、数年前は3割だったものが、約5割にまで上がりました。今後は、コロナの状況にもよりますが、このまま5割近い状況が当面は続くのではないかと思います。

### (委員)

建具業界では、年々既製品が主流となり、規模も小さくなってきています。消防法などとの兼ね合いもあって、木製建具の納品は、扉と物入れ、ふすま・障子程度となってきています。そうした中でも、地産地消やSDGsなどを考えると、地場の木材を使った建具を入れていかねばならないと思っており、市発注の物件なども含め、そういったところと一緒に取り組んでいけたらありがたいと考えています。

建具業界では人材育成も大きな課題になっています。工芸センターで取り組んでいる木製品加工や3D-CADの講習などを継続的に行ってもらい、人材育成につながっていけばと思います。

### (委員)

木材協会では、ウッドショックの影響もあり、道産材に対しての注目が集まっている中で、木材を供給する立場からこの問題を真剣に考えているところです。国有林、市町村林、学校林などすばらしい広葉樹を持っている方々がいらっしゃり、そういった方々に対しては、材料が逼迫している状況を常々訴えています。8月には国有林に対しての要望を行うため、林産組合理事長が北海道森林管理局長と面談する予定となっています。必要な木材を家具業界等へ供給するため、良質な広葉樹を確保できるよう進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

### (委員)

林産試験場で扱っているのは建築材料が中心で、針葉樹が多数を占めます。道産のトドマツなど人工林の材をいかに使っていくかということに、行政と一体となって取り組んでいるところです。

これまでの一般住宅では、安価で供給も安定している輸入材が主流でしたが、これを道産材に置き換えていこうという動きが見られます。例えば昨年は、民間企業から、2×4材を輸入材から道産トドマツに置き換えた場合の強度試験の依頼があったりしました。

このほか林産試験場では、針葉樹に熱を加えながら圧縮することで、密度を上げ、表面も硬くなり、フローリング材として活用できるような技術も開発しており、広葉樹に限らず人工林を幅広く活用していけるような研究開発に取り組んでいるところです。

### (委員長)

続いて教育関係の方々に、最近の就職先の状況や生徒の傾向など、特徴的なものがあれば伺い

たいと思います。

#### (委員)

近年は木材加工に携わりたいという若者たちが非常に少なく、旭川高等技術専門学院の造形デザイン科では、1、2年生の定員各20名に対し、1年生13名、2年生9名という状況です。

特に若い人の中には、木材加工にそれほど興味がある訳ではないけれどちょっとやってみようかなというような方も多く、そういった方々をいかにして旭川の家具産業の技術者というレベルにまでもっていくかという点に、少し苦勞している部分があります。

小中学校などで木工体験をしたり、出前事業をしたりなど、いろいろアピールをしていますが、なかなか家具製作に魅力を感じる若い人たちの数が少ないという印象です。

#### (委員)

近年、彫刻の分野でも、学生の体験的な学習の幅が狭まっており、例えば刃物を扱わせない、扱いたくないというような学生が増えている傾向にあるという話が、あちこちの大学で聞かれます。彫刻で刃物が使えないとなると、これまで主流だった木材から、スタイロフォームやモルタルなどの手頃な材料への移行が進むことになり、教育界としても問題視しています。

また大学にいて感じるのが、学生がお客様感覚のまま高等教育まで進んできて、社会に出ると突然お客様をもてなす立場になってしまうということです。中間の立場を経験しないままの若者が多い気がします。そういった若者が今後の教育者になっていくことを考えると、今から何らかの手を打っておかないといけないと感じます。

教育大での傾向としては、今は教員不足の問題がある一方で、逆にもっと働きやすい業種を求めて民間に流れていくといううごきも見られます。今後どうなっていくのか、自分たちも見通しが持てない状況にあります。

#### (委員長)

続いて、インテリア業界の状況はどうでしょうか、発注者がインテリアに取り入れるトレンドや、コロナの影響など、特徴的なものがあれば教えてください。

#### (委員)

インテリア業界では、ここ3年近くはコロナの影響で閉鎖型の状態が続いていましたが、住宅やマンション関係の需要は一定程度あって、最近札幌近辺ではマンションやホテルの需要が非常に多いです。旭川では、住宅関係が若干伸びている感じはします。

価格高騰の影響では、メーカー側も業者側も、金額が増となった負担分をクライアント側に寄せるのかどうか、非常に難しい状況にあります。また契約をしても途中で金額の変更が生じてしまったり、中国からの供物資給ルートの状況が悪いため納期にも変更が生じたりといった点が、大きな問題となっています。

この価格上昇が今後いつまで続くのか、そして通常の状態に戻るのがいつなのか、大きな不安要素です。

### (委員長)

最後に、クラフトと窯業について、コロナの影響も徐々に少なくなっているようですが、最近の状況を教えてください。

### (委員)

先日のデザインウィークに出展・販売をしたのですが、成果としては散々でした。バイヤーさんはたくさん来たようですが、一般のお客さんがいる時間がほとんど無くて、売り場担当の人しか居ないような時間も結構ありました。その後7月には札幌で「北から暮しの工芸祭」に出展しましたが、そこも売上としてはそこそこで、昨年のお3分の2程度にしかありませんでした。

原因としては、昨年はイベントが少ない中で強行したこともあり、お客さんがイベントを待ち望んでいたためたくさんのお客さんがあったけれど、今年は各地でイベントが催されているので、お客さんやお金の使い道が分散しているのではないかと感じました。これからさらに厳しくなっていくような気がします。

道産材の話についてですが、クラフト業界でも、材料が手に入らず道産材にシフトしたという話をよく聞きます。そうすると、もともと道産材を使っていた方々は材料が手に入りづらくなってしまいます。そういう方々にとっては今後厳しい状況になってくるだろうと思っています。商売として考えればしょうがないことかもしれませんが、やるせない感じがします。

### (委員)

陶芸は、産業としての木工業と違って、立ち位置がちょっと趣味的になります。

昔はもう少しクラフト的な概念が強かったのですが、今は少し違ってきていて、例えば親しくしている居酒屋さんに対しても、自分が作っているお皿を使ってくださいとは、価格的な面から言えません。かなり高額なのでなかなか飲食店では使いづらく、むしろ100均の器の方が、品揃えもあるし、よく見えてしまうような状況です。

そんな訳で陶芸は、生業としてやっていくことの難しさが、木材とはぜんぜん違います。

自分は生業としてやきものをはじめて、この11月で50年になります。昔は、作品を認めてくれる人や、やきものを作りたいという人もたくさんいましたが、今の若者はデジタル系などの職業に関心が高く、陶芸の苦勞が半端ではないことも分かっています。今の旭川の陶芸人口は把握できていないですが、亡くなった方も多く、後継者もいません。これを「産業」として考えるのはちょっと・・・、という感じがします。

この先、後継者をどう確保していくのか、またそこに工芸センターがどのように関わられるのか、難しい問題だと思います。

### (委員長)

皆様、それぞれのお立場からの貴重なお話をどうもありがとうございました。

これを持ちまして運営委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

閉会